

松葉
飛書

異國船一冊

扣

リ 5
15546



文化三年 松本蝦夷地 是國松尾各府

諸島嶼 津市 津市 津市 津市

文化元年 津市 津市 津市 津市

津市 津市 津市 津市

松本西蝦夷地 津市 津市 津市 津市

津市 津市 津市 津市 津市 津市

津市 津市 津市 津市 津市 津市

津市 津市 津市 津市 津市 津市

其... 森茂乳坊... 國公... 私...
是... 火... 于... 院... 月... 土... 庫...
... 月... 中... 白... 又... 一... 度... 右...
... 松... 前... 若... 校... 守...
... 人... 教... 牙... 向... 中... 高... 方... 同... 人... 家... 事... 者... 分... 私... 家... 事... 者... 竟...
... 近... 中... 少... 箱... 教... 牙... 向... 口... 別... 諸... 家... 事... 者... 中... 遠... 休...
... 持... 場... 內... 少... 倉... 庫... 以... 大... 倉... 北... 常... 中... 南... 中... 戶... 事... 是... 候...
... 百... 人... 之... 夜... 放... 燄... 下... 瓦... 之... 傾... 也... 倉... 海... 倉... 瓦... 也... 事...

... 箱... 籠... 牙... 向... 口... 別... 諸... 家... 事... 者... 中... 遠... 休...
... 勿... 得... 又... 由... 在... 衣... 逃... 之... 場... 人... 殺... 牙... 出... 倉... 南... 中... 戶... 事... 候...
... 在... 倉... 中... 戶... 事... 候... 隨... 而... 傾... 也... 浦... 倉... 北... 常... 中... 南... 中... 戶... 事... 候...
... 以... 候... 清... 在... 倉... 中... 戶... 事... 候...

南部之指書

... 先... 以... 由... 倉... 中... 戶... 事... 候... 西... 側... 夷... 地... 庫... 之... 以... 神... 倉... 吳... 國... 松... 相...

又以此者松本若校字家集之者内記中亦有持城
内記之云云其云云北帝一云高平乃云一人殺
内弓矢能一也惟百人云云故城下其云云内中
之海有云云至箱館在江州中達深乃其是也
而云云向積り且退之増人殺其初也其死也中乃其是也
去月十下策彼在江州日所談家集之者物成孫
後他祖是惟此乃云云策彼者二云云也乃其是也
乃物成孫同月役一孫并小字以抄人云云乃其是也

是惟百人云云一云云内弓矢能一也惟此中
り一也惟此中云云乃其是也
此云城下云云乃其是也

南部之孫云云

一 東嶽表乃云云乃其是也
乃其是也乃其是也乃其是也乃其是也乃其是也

松平政宗代に殺せり箱館を所より通ずる事
其の向は松平政宗の命に依りて其の終り

その終り云々松平政宗の命に依りて其の終り

箱館を所より所を安撫守りて其の終り
花札因

ホウの事云々松平政宗の命に依りて其の終り

其の終り云々松平政宗の命に依りて其の終り

其の終り云々松平政宗の命に依りて其の終り

其の終り云々松平政宗の命に依りて其の終り

此の所は支那の所なり其の終り云々松平政宗の命に依りて其の終り

その終り

酒井左衛門尉

その終り云々松平政宗の命に依りて其の終り

アメリカ國の者ありて其の終り云々松平政宗の命に依りて其の終り

其の終り云々松平政宗の命に依りて其の終り

其の終り云々松平政宗の命に依りて其の終り

其の終り云々松平政宗の命に依りて其の終り

其の終り云々松平政宗の命に依りて其の終り

中本可成所産...

...

南於大...

去井大...

...

一 東...

...

松平政...

...

...

一 東...

...

大直家入殺之也... 尚中尚少尚... 吳愛之言... 順分... 竟敗... 遠書... 乃夕... 出長...

後肥... 陰... 此... 依... 依...

口月形... 松平政...

松平政...

一 東... 亦... 亦...

為平所用意欲使並策數年以中遠取子可
其年向手配之於彼地可也其年向佐井右京
其更百人殺其西極其遠下宗私之其年於其更
津州戰陣中其遠取子可也其年

日內守及此遠取書者

松平政次

以高野美地事其國私于其年向多海島
其年本より國公持方其年其年其年
其年向編其年其年其年其年其年其年其年

其年其年其年其年其年其年其年其年其年其年
其年其年其年其年其年其年其年其年其年其年
其年其年其年其年其年其年其年其年其年其年
其年其年其年其年其年其年其年其年其年其年

日白此書

其年其年其年其年其年其年其年其年其年其年
其年其年其年其年其年其年其年其年其年其年
其年其年其年其年其年其年其年其年其年其年
其年其年其年其年其年其年其年其年其年其年

夢殺も言ふ也右私早口つ流之海口前後も是之
走右取艘印も今も終途津合漂流見之隠し石火
文と新を言ふ振と却之世一通も私も紙は未だ知れ
曰く日又早口つ出臨を言ふ早口つ不も流之右私道
私に言ふ事ある人殺も津地人殺も一列も言ふ事場所
而難美私橋と部三千人初言事場所示込石
火文を放吏分と陰双言後船打合も成赤も人打る
三人おも原ゆと右と右も私も運せ且又出臨を言

私津地家も言ふ事一人殺勃事別火を言焼掃
Pも言ふ事十三リ鴻子毛口鴻追も言織戸也也言る難
夷地流家も言ふ事P織戸也也言る難

南於大橋之文

六ノ事ノ去井極也也

今日其別も私柳も言ふ事今も言ふ事築敷表も言ふ事
私家も言ふ事今も言ふ事今も言ふ事今も言ふ事今も言ふ事
四私も言ふ事今も言ふ事今も言ふ事今も言ふ事今も言ふ事

皇朝國門之守也... 我朝之守也... 皇朝之守也... 皇朝之守也...

...

津恒越中寺

今日... 皇朝之守也...

一 皇朝私南... 策報表浦... 且卜口... 私立別...

皇朝之守也... 皇朝之守也... 皇朝之守也...

...

去月... 皇朝私... 策報... 且... 皇朝之守也...

六

津州鐵中寺

口白所りく採出也

一 松前長御所より私家集りて有る寺田意志の中西の南
所より大筒を採出せし中より世に大筒武蔵屋と稱す

一 大筒

三換

他 此方同筒 三換
三換同筒 三換

一 鉄炮

二十換

右の如く武蔵屋の如く去月物、其の如く増運送付也

中鐵、此は所産の如く

六

津州鐵中寺

今より七枚野原の如く

一 去日箱鐵中より羽之安藤守守の如く遠く西郷
地の勢固御所より人殺口ヲヤト近ありて其の如く人殺箱
報法より人殺口ヲヤト近ありて其の如く早口一
八千人の願命ありて口ヲヤト近ありて其の如く
之類鉄炮組の如く其の如く作願物而大筒送付人殺

手紙に被り書し、去被り字一人、今去被り字一人、其願分
 去被り字、後出帆、此一艘、之海、之去被り字、下、第被り表
 者、也、去被り字、字、一人、去被り字、方、沖合、何、交、何、交、七、時、氏
 松前地、サ、ツ、ト、イ、テ、一、年、一、而、一、灘、少、ク、被、私、仕、武、器、之、亦
 法、在、矣、大、少、海、久、字、租、人、殺、之、自、年、人、溺、死、于、
 外、湖、之、上、陸、任、何、及、一、致、方、有、子、連、年、海、久、任、
 武、器、代、り、在、也、通

一 被り

百挺

一 大筒

一 被り

但、去、月、十、二、日、也

一 弓

十 張

一 長柄鎗

十 筋

一 旗

十 流

一 纒

一 通

一 色目鏡

一 口

一 幕

一 對

一 三寸道具

一 通

右通海失一武若足惟是且也亦探代人教
之有教渡海一舟一以成也唯此一也

侍悦敬中寺

寺之有り筆額有以御堂無字様不依作一七第之更様
此向之て此連一在也

一 在飛天地上ト口ノ流之是國大和ニ渡渡海及車
礼十三リ傳り也所奉之寺也戸致有南紀大徳堂津
恒鏡中寺焉彼地勤者奈以度増人教之也中

遠く物有若吳國人九也援普之け方押寄中紀也
難斗在也今五家人教也寺は是寺は方汝地
紀皇惟大筒中向也茶末丈夫月三松寺も亦箱鏡
向可長五形也在入教之度之探者有り此之寺は出
此探者自然其交之ハ五家勤者之教也亦皇は
方一有り向寄也假令一此方一可也連方有るP之成也
此之寺は定以三五年此書付之也有り一月份成中連

羽衣安藏寺

佐井右京三又教

後人甲

尚以酒井左衛門尉役人中より前文より述べて連名を以て得
て此中連名

別紙に連名物に之れを分限する者ありて是れ迄に
之れを一切の所置に在りて得る人殺し搦り捕り
扱又難天地義海防中より地中異國人の上陸後
海防に在りて亦傳言より火砲志事致成りて是れより繪本

後始人殺多事亦海に地理に由りて大筒を用意致成り
格致商

一 以て酒井屋中より箱鼓表更向りて人殺し義法砲組
物頭目方役小高延幸以初平亦悪人殺三万石人
大筒大延北平筒中延小筒八十延致成りて是れ南内新
吾之甲に依りて新傳人九分中致し以て此中連名

酒井左衛門尉

一 津田三之長及市坪孫去月在午上戸ノ海軍軍刑
馬及孔坊ハ魯西亞人未組一入私成被日九之由
会那会刑、押寄進之と陸口下川向大筒打熱
会刑ハ方ハ多遠光一同殺之御所也路ハ得九敵
大筒子ハ一夜ハ入るヲ程又十ヨリ三ノ方ハ
大筒到也打熱前後之第一是ハハ山ノ一日目
上積りナリ戸回又之更代跡と防足弱子休也此
之身ハ門拂ハセハ九夜中ノ事ハ許又大機也信

之御勿論是也ハ事切拂ケルハおも負ハ知也
有之ハ九又之是也ハ九夜中進ハ決然打熱ハ
第一彼等ハためハ打殺且搦取捕ハ多打也ハ
又之更外個對一上ノ津外ハ事ハ失ハ死ハ多
此也之ハ事ハ成ハ彼敵を之ハ命ハ也ハ一於途中
又事ハ自害ハ一ハハ彼國を之ハ命ハ事ハ
久保田見達也ハ中鐵ハ事ハ北野ハ事ハ急事也
ハ鐵ハ事ハ也又之更ハ事ハ完ハ事ハ何秋傷

可也... 石戰死... 安樂守... 柳... 又... 厚... 珍...

大治崇政命

魯西無人北... 吟... 捕... 連... 珍...

戰死

田又...

卯... 大...

當... 策... 三百... 東... 蝦... 上... 鑽... 會... 石... 弘...

左木防又六人打殺深子お原不者ともく示夜入妻
これより火を起燈拂ふ者防兼一回ニヤナと門退
箱鼓を以て追進をせし且又去月ナセハ来南於津
の沖よりも怪夜私あえにけり、築鼓進を神の
宗島宗安箱口西の方上廿廿キとナシ仲之通
帆飛もあえ右介別あやまらば世に彼は
風平のりるも心得る向くとも急度と世に
右通堤 公儀所 作り平介

長年号

堀田橋津舟楫

中川花彈舟楫

山合四舟楫

村之監物楫

小波物楫

奥出右平舟楫

出佐之舟楫

舟下舟楫

余船

松平素直守極也 仰承之旨上上ノ御清心也

松平九郎孫守極也 仰承之旨上上ノ御清心也

南於津州也 仰承之旨上上ノ御清心也

松平政平代極也 仰承之旨上上ノ御清心也

自厚用也 仰承之旨上上ノ御清心也

秋田城也 仰承之旨上上ノ御清心也

赤松也 仰承之旨上上ノ御清心也

赤松也 仰承之旨上上ノ御清心也

津州表也 仰承之旨上上ノ御清心也

松平也 仰承之旨上上ノ御清心也

松平也 仰承之旨上上ノ御清心也

松平也 仰承之旨上上ノ御清心也

松平也 仰承之旨上上ノ御清心也

松平也 仰承之旨上上ノ御清心也

松平也 仰承之旨上上ノ御清心也

松平也 仰承之旨上上ノ御清心也

此月某雜表也 定有今而 幸此方及 亦曾 亦
回蒙之別版也

知亦一私 亦打也 亦中 亦津 亦安 亦地

只今私立列人亦打也 亦中 亦中 亦國私殺 亦日浦
亦打也 亦本私人殺 亦月 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦
甲胃也 亦一 亦張 亦也 亦且 亦下 亦口 亦也 亦也 亦也 亦也
亦友 亦也 亦亦 亦人殺 亦南 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦
亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦

彼子此也 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦
亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦
亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦
亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦
亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦

洋行 亦中 亦

私願 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦 亦亦

船及船通りし月日列を又其人の者之等之任列
其船通りし月日列を又其人の者之等之任列
其船通りし月日列を又其人の者之等之任列
其船通りし月日列を又其人の者之等之任列
其船通りし月日列を又其人の者之等之任列
其船通りし月日列を又其人の者之等之任列
其船通りし月日列を又其人の者之等之任列
其船通りし月日列を又其人の者之等之任列
其船通りし月日列を又其人の者之等之任列
其船通りし月日列を又其人の者之等之任列

同日七時のとき舟并停村地より大之里隔通り
同日十八日意地は時比縣ヶ次地より十里程沖公あり

松前地より舟をとり松子由る

同日八時のとき十三港より舟をとり舟を日鏡より
此山沖程現港より西南の舟あり十三地より大之里程沖
小舟あり初八時のとき舟をとり舟を松前より
舟を指す舟を舟を帆張船と舟あり舟あり
色子あり白き船あり舟あり舟あり

右に松大庭日あり舟目より積り日子舟位あり舟あり
浦より舟あり舟あり浦あり舟あり舟あり舟あり

今戸越時辰所度中々々

去月十八日

津恒越中守

去月十八日夕七時のこ私願分海邊の寺田忠右衛門
人殺出張と交午弁白律作一書所端右あり
波出張と右船帆通一午後帆形も亦之不
しと右利晚書氏人殺門取れ右度と一
取門九右方右新表戸越時辰中々々

去月十八日

津恒越中守

去月十八日夕七時のこ私願分海邊の寺田忠右衛門
人殺出張と交午弁白律作一書所端右あり
波出張と右船帆通一午後帆形も亦之不
しと右利晚書氏人殺門取れ右度と一
取門九右方右新表戸越時辰中々々

若水村 中々々

我子美大軍と云く向小側一處討たるべき事
在後松前役人稱ヨロヤノ之紙面を以て相又討後
そして口つやに其敵をくそのふらさしむるに對後也
お唱は依り心能に程敵難斗は皆由心持中違はる
一 存り人家事と云く中違を以て彼等文通一返言
致しりお願は物方より其器を指すは其來其
處を仍中系りり口前も及討後ハ相又只今討
後致交りり是れ系りり相を其器を携り市上陸

可致ハたも中 木ぬての忽打五言ハ彼中其言
以返事今又彼服違市ハ何れ迫るべき事
又ハ返事一可事 信し付方ハ平服陣羽織ハ指信
ハ彼方ハ系りりりまを其言と云く是れ通し 意討可
致しり私遠來ハ相ハ交度中出席及討後也
子遠討後也人殺しハ此道は其言ハ月言及
希張ハ信も其言中違ハ其言ハ其言ハ其言
之者ハ策録ハ其言ハ其言ハ其言ハ其言ハ其言

西遊記

七

津悦敬中寺

此寺は伊予松前焼浦長持寺に或る日通行
物懐友事一免出物一交与ふ東成也程と西遊記に
物尤を同くす云々西遊記

文化四年甲申八月八日備前松前延喜寺に
多礼群集後西代橋旅人等久々見合ふ事あり

松前之箱鍛怪部伊予八箱橋口以西より

討死と云ふ死事あり海三川難夷と箱鍛

伊予之箱橋

竹橋門外神扱松凡も多段折台傳

上麻津機廻るを大石の形是代祝と云ふ

君が松おるる向中梓と云ふ

畿千代年の橋ぬを云ふ

伊予諸所程と別伝云々及西あり

位の家柄も一人も大層な者な何となくくくく
定て家柄もひんぬ物ハ小ぢの程な物となべハ敷ハ
少くもそくは私ハ日本ハ人なれハこそ天竺より来
た家たぐさせそくれハ少くもあはれハこそ日本
の斗斗ハ少くもひんぬ一江者一江者ハ少くも
思ひそくはだんの上幸坪斗斗の地をすくく日本
家とてはくくく人母の妹の婆家本家とてはくく日本
ハ少くもひんぬとてはくくくくくくくくくくくく
あはれハ少くもはくくくくくくくくくくくくくくく
日本ハ少くもはくくくくくくくくくくくくくくく

日本の形とすくくくくくくくくくくくくくくく
母は少くもはくくくくくくくくくくくくくくく
夜の明もあはくくくくくくくくくくくくくくく
こゝれハ少くも私ハ少くもはくくくくくくくくくく
少くもハ少くもはくくくくくくくくくくくくくくく
も中ハ少くもはくくくくくくくくくくくくくくく
格別ハ少くもはくくくくくくくくくくくくくくく
つたハ少くもはくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
少くもハ少くもはくくくくくくくくくくくくくくく
少くもハ少くもはくくくくくくくくくくくくくくく

佛の正^まにけと明^あ若^わ天^{てん}返^{へん}天^{てん}神^{しん}一^{いつ}千^{せん}亦^{また}ハ^ハ万^{ばん}為^ゐ邦^{がくに}祈^{いのり}の^ひ一^{いつ}
又^{また}は言^{ことば}多^{おほく}海^{うみ}友^{とも}あ^あき^きと交^{まじ}わ^われ^れえ^え多^{おほく}友^{とも}を格^{かく}別^{べつ}の^の一^{いつ}
佛^{ぶつ}收^{いん}た^たえ^えあ^ある^るれ^れ光^{ひかり}格^{かく}別^{べつ}の^の由^{よし}々^々も有^ある^るを^を佛^{ぶつ}別^{べつ}の^の一^{いつ}
千^{せん}中^{ちゆう}一^{いつ}は^は私^しの^の親^{おや}友^{とも}の^の名^なを^を知^しる^る事^{こと}は^は一^{いつ}一^{いつ}を^を私^しと^と言^いふ^ふ事^{こと}は^は私^し
能^{あた}ら^らず^ずの^の一^{いつ}一^{いつ}又^{また}千^{せん}中^{ちゆう}一^{いつ}は^は地^ぢの^の産^{うみ}物^{ぶつ}を^を業^{ごう}種^{しゆ}を^を
私^しに^に相^あ入^いれ^れし^しの^の名^な氏^しモ^もリ^りヤ^やテ^てル^るコ^こト^と書^かせ^せし^し
由^{よし}送^{おくり}り^りに^にて^てお^お尋^{もと}め^めし^し思^{おも}ひ^ひに^にて^てお^お尋^{もと}め^めの^のつ^つみ^みに^にて^てぬ^ぬも
お^おそ^その^の縁^縁に^にて^てわ^わか^かさ^さぬ^ぬも^もお^おあ^あん^んに^にて^てお^お尋^{もと}め^めの^のつ^つみ^みに^にて^てぬ^ぬも
し^しの^の親^{おや}友^{とも}あ^あり^りに^にて^てお^お尋^{もと}め^めの^のつ^つみ^みに^にて^てぬ^ぬも
り^りの^の一^{いつ}一^{いつ}に^にて^てお^お尋^{もと}め^めの^のつ^つみ^みに^にて^てぬ^ぬも
の^の一^{いつ}一^{いつ}に^にて^てお^お尋^{もと}め^めの^のつ^つみ^みに^にて^てぬ^ぬも

海^{うみ}の^の一^{いつ}一^{いつ}に^にて^てお^お尋^{もと}め^めの^のつ^つみ^みに^にて^てぬ^ぬも
し^しの^の親^{おや}友^{とも}あ^あり^りに^にて^てお^お尋^{もと}め^めの^のつ^つみ^みに^にて^てぬ^ぬも

日本大坂

阿常院園モリヤテルユウ内

坊を法住持候

沖村のり

公儀下取と成物

何人歎写九語あり流り

武列子蒙那中符

嘉永四年

山崎周良

印

丁巳年

新井白石

新井白石

武列子蒙那中符

中山

山寄

周政

卷